

## 越谷商工会 ICT 戦略

—教員養成課程学生による地域連携ボランティアの提案—

越谷商工会 ICT 戦略プロジェクト学生ボランティア 村山 大樹

b0g31006@koshigaya.bunkyo.ac.jp

キーワード：地域連携、教員養成、学生ボランティア

### 1. 本実践の背景

近年「教育の情報化」と「地域連携」が学校現場でますます重要なテーマになっている。

本実践は、文教大学教員養成課程に所属する学生と、地元の越谷商工会会員による、ICT を活用した「越谷街おこしコミュニティ」の開催を企画したものである。

現在、教員を目指す学生は、ほぼ全員が教育現場で何らかのボランティアに参加している。現場を知ることは学生にとって良い経験となる。しかし、教育は学校の中だけで完結するものではなく、地域との交流も求められている。そのため私達は、一昨年度より学生と地域が関わる場として、越谷商工会から依頼を受けていた「越谷商工会 PC 教室事業」(学生が講師を務める)を開始した。平成 23 年度の越谷商工会 PC 教室プログラムは以下の通りである。

表 越谷商工会 PC 教室プログラム

【お店で使う 技能用コース】 (各月毎にテーマを設定)	【パソコン技能 習得用コース】 (ワード・エクセル・エクセル・パワ ーポイントの技能習得)
2月：準備講座①	・ワード技能講座
3月：準備講座②	・エクセル技能講座
7月：メール活用 講座	・パワーポイント技能講座
8月：ツイッター 講座	
9月：ブログ講座	
夏季集中講座	
10月：ホームページ講座	
11月：チラシ作り 講座	
12月：年賀状 講座	
1月：リピート講座①	
2月：リピート講座②	
3月：リピート講座③	

この教室の開講が、地元の越谷商工会と学生がこれまでよりも近づく一助となつた。

しかし、期間の限られた教室だけでは、学生と地域の連携力を向上させるレベルには至らなかつた。そうした中で、受講者からはもっと気軽に相談したいという要望が、学生からは教室外でも地域と関わりを持つことを希望する気運が高まつてゐた。そこで、PC 教室と連携した、学生と商工会会員とが直接出会う、ICT を利用した「街おこし」を共通の目的とするコミュニティの設立を行なつた。

### 2. 本実践の目的

本コミュニティの目的は、①ICT 活用によって学生と商工会が協力して街を盛り上げること、②教員を目指す学生の地域連携と ICT 活用に対する意識向上のための新たなボランティアの場の創出、の 2 つである。

そのためコミュニティでは、ツイッターやブログ等の SNS を利用した情報発信や、iPad 等の最新の情報端末を用いた経営戦略について、学生と商工会会員が共に考えていくスタイルを探つた（写真 1）。学生は、地元の人々と仕事内容や取り扱い甲斐、苦労や悩みを聞くことにより、教員として必要な地域連携力を体験的に学ぶ場とができる。

両者にとって利益のある、Win-Win の関係を作りながら、新たなアイディアの創出を図つていく。

なお本実践は、学生の課外活動に対する文教大学独自の奨学金「チャレンジ育英制度奨学金」に採用され、大学からも正式にその意義が認められた取組である。



写真 1 コミュニティの様子 (iPad 紹介)

### 3. 本実践の概要

これまでにも、学生と地域が連携して企画したイベントは様々な所で行われてきた。しかし、あくまで学生が主体であり、地域はそれを支えるという関係であったこと、盛大はあるが一度限りで終わってしまう催しが多かつたこと、両者の Win-Win の意識が共有できなかつたこと等の課題が指摘されている。大イベントの企画ではなく、その土台となる、いわば草の根的な協力関係を構築するような試みは、地元の越谷市にはまだなかつた。

そこで本コミュニティは、①持続可能であること、②学生と商工会会員の両者が主体的に活動できること、③コミュニティを契機に新たなつながりや企画を創出できること、の 3 つを活動コンセプトとした。そのため、コミュニティへの参加は商工会会員なら誰でも可能で無料とした。開催周期は月に一回程度、出欠席及

び遅刻・早退は自由とし、無理のない参加を可能にした。コミュニティの開催は越谷商工会新聞、越谷商工会ホームページ、越谷商工会担当者のツイッター等、デジタルとアナログの両面から定期的に呼びかけている。

各回のコミュニティの内容は、前半は ICT に関する情報交換の時間、後半は、各店舗の ICT 活用アイディアを学生がサポートしながら形にする時間とし、両者が話し合いながら、新しいアイディアの創出を目指した（写真 2、写真 3）。各回の最後には、全員で意見を検討する時間を設けるようにした。その中で、商工会会員から「先生を目指す学生には、社会のいろいろなことを勉強して欲しい」という意見が多く出され、教師という立場に対する地域の期待の高さが学生にも感じられた時間となっていた。



写真 2 学生と商工会会員の話し合いの様子 1



写真 3 学生と商工会会員の話し合いの様子 2

こうしたコミュニティの中で生まれたアイディアを PC 教室で具体的な形にし、教室で得た技能を活かしてコミュニティで実現を図る。このサイクルによって、越谷商工会全体の ICT への関心を高め、交流が更に深まるようにコミュニティ運営を行っている。

また学生は、本取組に参加した経験を教育現場や教育実習での地域連携としてどのように活かせるか、学生同士で共にシェアリングする時間を重視している（写真 4）。シェアリングの中で「今後教師として子どもたちの多様な進路を指導する際、教師自身が多くの仕事に関する知識を持っておく必要がある」という声が上がり、学生ボランティアとしてだけでなく、教師という立場としての意識も高めることにつながった。



写真 3 学生のシェアリングの様子

#### 4. 本実践の成果

本実践は継続中であるが、全体の成果として、①学生と商工会会員の話し合いが活発になったこと、②各店舗や商店街のツイッター登録数が増加し、商工会全体の情報発信力が増したこと、が挙げられる。

それもさることながら、特に大きな成果として、学生の地域連携に対する意識の変化が起こってきた。ある学生は、教育実習で地域連携と ICT をテーマに研究授業を行い、またある学生は、PC 教室で教えていた動画編集の技能で、実習先の運動会の振り返りビデオを作成した。その他にも、卒業研究で遠隔授業による地域との交流学習をテーマに掲げるなど、本取組に参加した学生の地域連携と ICT 活用に関する意識が確実に向上した。大学の実習担当教員からも、「こうした学生のダイナミックな意識の変化は地域ボランティアに参加したからこそ生まれたものである」との評価をいただくことができた。

商工会側も、各店舗のツイッター利用数がコミュニティ参加を機に増加し、更に商工会青年部を中心に、越谷商工会共通ツイッターの開設企画が動きだしている。商店街での共通ツイッターは、京都の錦市場など様々な団体で活用されており、誰もが簡単に導入できるのが魅力である。共通ツイッターの開設によって、単体の店舗だけではできない幅広い情報発信が可能となり「街おこし」へつながる活動として認められてきている。

このように、地域、大学の両者にとっての Win - Win の関係が徐々にではあるが形になりつつある。

#### 5. 今後に向けて

今後はコミュニティを継続的に開催するとともに、立ち上げ当初からの学生だけでなく、本学の教員養成課程に所属する学生の公募や、越谷市内の小中学校と協力して地域学習の場とし、地域連携と ICT 活用の視点を持った教員に育ってほしいという地域の要望にも応えたい。

このような ICT を媒体としたコミュニティでの連携を新たな学生ボランティアの形として提案することで、教員養成課程の学生が眞の意味で地域連携を体験し、これまで行ってきたボランティア活動に加え、質的な向上を目指したい。